

GEOINT 2019 参加報告

2019年6月9日



葛岡 成樹



目次

概要	1
主な講演と展示	2
(1) NGA 長官キーノートスピーチ	2
(2) 国家情報副長官キーノートスピーチ	2
(3) トレーニング：マシンラーニングとディープラーニングアルゴリズムの基礎コンセプト	2
(4) パネル：生まれながらのデジタル世代の GEOINT 利用(Digital Natives Empowering the GEOINT Enterprise)	2
(5) 展示	2
ちよつと一言	3

概要

GEOINT 2019 シンポジウムが、2019年6月2日(日)から5日(水)まで米国テキサス州サンアントニオの Henry B. Gonzalez Convention Center で開催された。今年のテーマは、“Human-Machine Teaming & Innovation Yield Mission Success” (ミッションの成功のための人間と機械のチームングおよびイノベーション)であった。このシンポジウムは米国地理空間インテリジェンス財団(US Geospatial Intelligence Foundation: USGIF)が2004年から

毎年主催している防衛・安全保障向けの地理空間インテリジェンス(GEOINT)に係る世界最大の会議・展示会である。

参加者は米国を中心として、防衛・安全保障分野における、地球観測(EO)衛星を含む地理空間インテリジェンス業務関連の官・民・学である。今年の参加者数について USGIF による公式な発表はまだないが、毎年4,000人程度が参加している規模である。日本からも、防衛・安全保障分野の地球観測衛星関連者が50人を超える数参加した。

【感想・分析】

今年の GEOINT シンポジウムは、GEOINT の技術が防衛・安全保障向け地球観測衛星の利用を中心とした技術から、まさしく地理空間情報を用いたインテリジェンス全般向け技術へ変化していることを如実に示したと言えよう。衛星などハードウェアより、人工知能(AI)やプラットフォームといったITシステム中心のシンポジウム・展示会になってきた。

GEOINT はミッション指向性の強い技術であり、その時々インテリジェンスの分野で求められるミッションに合わせた技術が中心となる。筆者が初めて参加した 2005 年のシンポジウムでは、ハリケーン・カトリナによる大規模災害を大型地球観測衛星でどのように観測し、復旧に役立てるかという議論が中心であった。このころは衛星製造メーカーも多数展示会に出展し、大型衛星のモックアップやコンテナ搭載の地上システムの現物が展示に並んだ。2015 年ごろからは小型衛星の活用が謳われるようになった。これはアルカイダや IS などのゲリラに対する非対称戦(非正規軍相手の戦闘)における RPAS (remote piloted aircraft systems : 無人航空機)支援などのために、多頻度観測や小型衛星と大型衛星の相互利用の実現に向けた技術開発が多く議論・展示されていた。ここ数年、自国内で育った人によるテロ(Home Grown Terrorism)に対して衛星の利用はあるものの、それよりも街角の監視カメラ画像を用いた Activity Based Intelligence など警察の犯罪捜査に通じる技術が求められるようになってきている。今年のシンポジウムもその流れの中で、小型衛星の議論・展示すら格段に少なくなり、中心は IT を使ってどのように効率的にテロを防止するかが議論・展示されるようになった。衛星は GEOINT の中での 1 コンポーネントに留まるようになった。一方昨年のシンポジウムでは AI の重視が声高に叫ばれていた

が、今年は AI の利用はすでに当たり前になってきた。

今年はちょうど小型衛星を中心とした GEOINT から IT 技術を中心とした GEOINT への過渡期とも言えよう。今後の GEOINT がどうなるかは、防衛・安全保障分野でどのようなミッションが求められるかによって決まってくる。

主な講演と展示

(1) NGA 長官キーノートスピーチ

(2) 国家情報副長官キーノートスピーチ

(3) トレーニング：マシンラーニングとディープラーニングアルゴリズムの基礎コンセプト

(4) パネル：生まれながらのデジタル世代の GEOINT 利用 (Digital Natives Empowering the GEOINT Enterprise)

(5) 展示

ちょっと一言

サンアントニオでの食事は観光地リバーウォーク沿いの Tex-Mex 料理(米国テキサス風のメキシコ料理)が美味しい。ただし煮豆、アボカド、チーズとボリュームたっぷり。ちょっとボリュームが多すぎるなと思ったら、ファヒータを頼むのが

良い。ファヒータは細切り牛肉とピーマン・玉ねぎなどを炒めたもので、トウモロコシ粉でできた

薄い皮トルティーヤに自分で包んで好きな調味料を加えて食べるから、味やボリュームの調節が可能である。



このファヒータには、やはりサンアントニオの観光名所アラモの砦にちなんだ地ビール ALAMO というクラフトビールがよく合った。

本報告書へのお問い合わせは：



株式会社 サテライト・ビジネス・ネットワーク

<http://sat-biznet.com>

葛岡 成樹

E-mail: shigeki-kuzuoka@sat-biznet.com

TEL: 080-2052-1348

Euroconsult

ユーロコンサル日本事務所

<http://www.euroconsult-ec.com>

葛岡 成樹

E-mail: shigeki.kuzuoka@euroconsult-jp.com

TEL: 080-2052-1348